

琉球水難救済会が洋上救急慣熟訓練を実施

投稿:琉球水難救済会

琉球水難救済会では、11月18日午後、海上保安庁那覇航空基地において、23年度第1回目の洋上救急慣熟訓練を実施した。

第十一管区海上保安本部救難課が全面的に企画した訓練計画に基づき、救難課長の開会挨拶の後、那覇航空基地の最新鋭ヘリコプターのアグスターを使い、洋上救急往診に携わる医師や看護師16名が3組に分かれ、狭隘な機内における患者と医療従事者の位置関係の確認、医療器具の設置場所の確認等々を体験した。



地上での訓練を実施した後は、基地の格納庫前面のエプロンで、ベル212型機が適度の高度でホバーリングし、患者に見立てた海上保安官を、航空機と機動救難士が連携して吊り上げ、機内に収容する一連の動きを、機内と地上から見学した。医師や看護師は往診派遣となったときには、長時間のフライトと狭い機内で患者と治療することとなることから、全員が終始真剣な面持ちで対応していた。



訓練は那覇航空基地以外に航空自衛隊においても実施された。

